フジロックフェスティバル 2004

ディエゴが一声発すると、
それはステージの向こうにある山に突き刺さった。
見学していた観客がどよめいた。
いい感じだ。

いよいよ本番だ。
軽快なアレグリアスからスタート。
掘越千秋の声が飛ぶ。
観客からはロックの歓声が上がる。
その瞬間の気持ちはアレグリアス（喜び）だ。

次はディエゴの番。
ロックしろ、ディエゴ！
お前のカンテで観客をヒットしろ。

One good thing about music, when it hits you feel no pain.
音楽ってやつのいいところ、それは打たれても苦痛を感じないこと。
ミゲルは歌えなかった。
見ていてつらくなる程きつそうであった。
であるが、愛嬌のある笑顔と踊りと下手な日本語で、
観客の声援をかっさらっていったのも
ミゲルである。

ミゲルよ。
お前がいつものお前であれば、
もっと観客を湧かすことができたのに。

ライブが終わり、ステージ裏の楽屋に戻ると、
次に出演するバスク出身の「フェルミンムグルサ・コントラバンダ」の連中が駆けつけて来てくれた。
バスク・ミーツ・アンダルシアがはからずも実現した。
(アフィシオンレコードより抜粋)